

※「もつと知りたいふるさと」のバックナンバーは千曲市ホームページでご覧になれます。

もつと知りたいふるさと

57

筒花火「八幡のとんとん」

八幡には、古くから「とんとん」と呼称されているお祭りがあります。

『武水別神社社伝』には、祈年祭（3月15日）・例大祭（9月15日）・大頭祭（新嘗祭、12月10日から14日）の「三大祭」があります。「とんとん」は例大祭前日の仲秋祭（9月14日）に、境内に準備された仕掛け花火や筒花火に点火され、その時筒花火が「とんとん」と威勢の良い音を立てて上がる様から表現されたようで、近郷近在で親しまれています。



境内に仕掛けられた花火



「とんとん」と勢いよくあがる筒花火

昔、若い頃に、近所の古者から「とんとん」は、花火師の競争のお祭りだ」と聞いた覚えがあります。この花火は、5町の世話人が輪番で作っていったようです。8月のお盆も過ぎると、その年の当番にあたる地区では花火作りの準備に取り掛かります。



大勢の見物客でにぎわう境内

して当日の仲秋祭に備えます（当時は花火の材料の調査は門外不出とされていた）。

この花火の火種（火縄）の実権は、戸倉の羽尾区と八幡の姨捨区にあつて、齋の森神社を出立した行列が、上町区と辻区の境にある高橋地籍に差し掛かると、両地区の代表と世話人との間で長い問答が行われます。問答の末に5町の世話人は、両区より火種（火縄）を譲り受けます。祭りの行列は進み、境内に高張提灯・お神楽・曳屋台などの行列一行の練り込みが終了すると、花火に点火されます。

天候や行列の進み具合にも

よりますが夜9時半頃、見物客の目前で橋と境内の中の鳥居の間に丸太で組んだ仕掛け花火や筒花火が「とんとん」と打ち上げられます。花火の終了が近づくと祭事も終盤です。

その光景は、それは雄大かつにぎやかで見応えがあり、見物客からの歓声と拍手がやまない見事なものです。きつと昔も今と同じ光景、たつたと推測できます。

明治・大正・昭和の1桁の時代までで、民間人が火薬を扱うことを禁止する法律ができると、この手作り花火の風習も無くなりました。今は時代の変遷とともに、花火作りは専門業者に委ねるようになりました。

八幡 町田吉功

